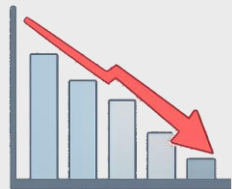


【手術部門・救急部門強化に伴う学生・専攻医の教育 および専門医育成による地域医療の持続化事業】

【現状と課題】

厳しい経営環境と
教育・研究基盤の危機



令和6年度
過去最大
赤字8.5億円



診療工フォート
過多

機器老朽化
更新抑制

医師マンパワーが診療に集中、
教育・研究工フォート確保困難

構造転換へ

要望 要望

外科医
求む

放射線治療医求む

救急医
求む

医師不足

地域からの派遣ニーズと
供給可能な医師との乖離

【改革のビジョン】 大学病院の構造転換



「教育・研究を起点として、
診療、運営、財務が相互
に関連し合う構造」

大学病院改革プラン
を踏まえた土台づくり

県や医師会
との
良好な関係性

戦略的な
人員配置

診療報酬
増加

奨学金制度
の拡充

教育・研究に
集中できる環境創出

具体的取組
(補助金活用)

【具体的取組】

補助金を活用した
3つの重点施策

① 外科領域の強化



ロボット手術推進
寄附金で2台目導入
+補助金支援

若手外科医の豊富な症例経験

② 救急・総合診療 地域医療の強化



高性能CT・AIソフト ICT(Join)活用
高度な診断能力を持つ救急医養成
ICT連携で地域診療を支援

③ 臨床研究基盤の整備



診療データ集約
効率的な
臨床研究環境
研究力強化

「医療用DWH」

【将来像と成果】 地域医療への貢献と 持続可能な医療体制

成果目標

消化器外科 専攻医確保数	1名以上/ 年を維持
救急・総合診療 専攻医確保数	2名以上/ 年を維持
医師派遣に係る 医師数(延べ数)	5名/年 増加

魅力ある教育・研究環境で
育った医師が地域に定着

好循環の形成

地域医療
の安定

魅力ある
教育環境

地域への
循環・派遣

人材が
集まる・育つ

地域医療を将来にわたって
支えていく福井大学病院へ

将来像と成果へ